

道徳的価値の自覚を深める指導の工夫

那覇市立小祿南小学校 仲村 恵子

テーマ設定の理由

子ども達の道徳性の発達を阻害している現象として、家庭や地域の教育機能の低下、社会全体のモラルの低下、社会体験・自然体験の不足等が挙げられている。それらが起因すると考えられる子ども達の様々な問題には、いじめや不登校、ひきこもり等があり大きな社会問題となっている。これら全てに共通する要因として人間関係能力の欠如が指摘されており、学校における道徳教育への重要性がさらに高まっている。

小学校学習指導要領解説道徳編では、自己を他の人とのかかわりの中でとらえ、人間関係の育成を図ることに関する内容として「主として他の人とのかかわりに関すること」があり、「よい友達関係を築くには、互いを認め合い、様々な場面での学習活動や生活を通して助け合い、理解し合い、信頼感や友情を育てることが大切」とある。

では、友達とのかかわりに関して本学級の児童の実態はどうであろうか。低学年の子ども達の特徴である自己中心性が残ってはいるものの、保育園や幼稚園、更に就学一年間の集団生活の中で子ども達の社会性は段階を踏んで備わってきておりグループ活動ができる状態にはなっている。ただ、休み時間の様子を観察してみると、孤立している子、特定の友人としかつき合おうとしない子、もめ事に対処できずいつも教師に解決を頼る子、給食時間にはグループから席を離す子などが見られる。身近にいる友達と仲よく活動し、助け合うことの大切さを指導する必要がある。

また、このような子ども達だけに限らず、この期は相手の思惑を察することもままならないのでトラブルが多い。そのことを踏まえ、学級の実態に即して適切な指導を展開しなければならぬ。

より良い人間関係をつくる上で相手を思いやったり、自分の気持ちを伝えることがいかに大切か、そして、人と関わることの楽しさを指導方法を工夫した授業を通して実感させたい。そうすることにより、今後の人間関係構築のバネになるのではないかと考えた。

そこで、友達と仲よくし助け合う子どもの育成を目指し、発問や自己を見つめる方法、資料活用等の指導方法の工夫を通して道徳的価値の自覚を深める研究がしたいと考え、本テーマを設定した。

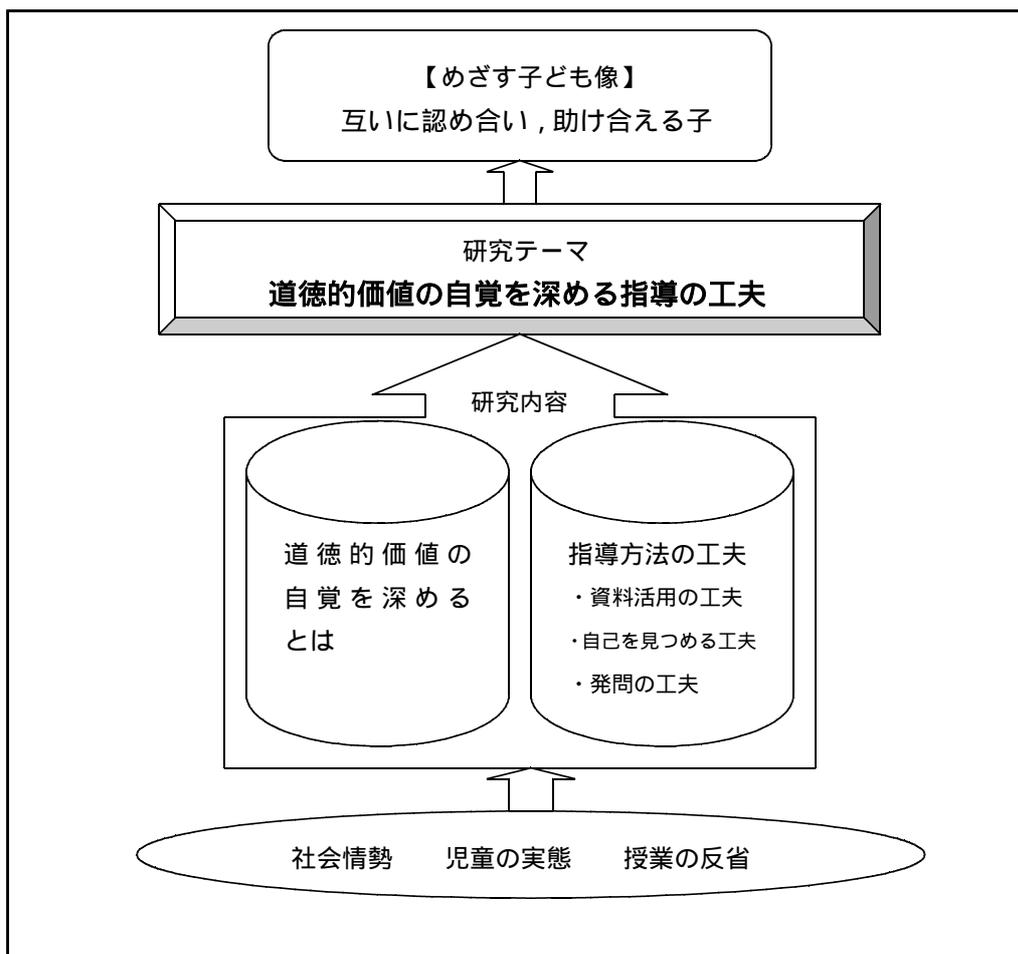
研究目標

友達と仲よくし、助け合う価値の自覚を深める指導の工夫を研究する。

研究方針

- 1 登場人物への共感を高めるような資料の効果的な活用の仕方について研究する。
- 2 自己を見つめる方法としてワークシートや役割演技を研究する。
- 3 道徳的価値を引き出す発問について研究する。

研究構想図



研究内容

1 「道徳的価値の自覚を深める」とは

道徳的価値は、人間としての在り方や生き方、人間らしさを表すものである。小学校学習指導要領解説道徳編では、その道徳的価値の自覚について、「道徳的価値についての理解」「自分とのかかわりで道徳的価値がとらえられること」「道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われること」を押さえておく必要があると述べられている。

誰でも、他の人から認められたい、尊重されたいという思いや、気高さ、心の弱さ等をもっている。それが人間のありのままの姿であることを理解した上で、知識として知っている道徳的価値と、自分にとって切実な問題だと受け止め、真剣に考えながら内面的葛藤や感動などを体験する中で気付いた道徳的価値が、真に大切なものだとして自覚することで自らの行動や行為のあり方などを変えていくきっかけになる。このような心の動きが道徳的価値の自覚を深めることにつながると捉える。

また、道徳的価値の自覚については、発達段階に応じて多様に考えられるが、道徳の時間では、子ども達の実態を踏まえ、表1にあるように、子どもの認識能力や心情等の発達に合わせて道徳的価値の自覚を図っていくような指導をすれば、子ども自身、自らの心の動きを実感しながら道徳的価値の自覚を深めていくことができると思う。

表1 心情の発達段階に応じた道徳的価値の内面化

	特 徴	道徳的価値を内面的に自覚させるための留意点
低学年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分でしなければならないことができるようになる。 ・自己中心性はかなり残っているが、他人の立場を認めたり、理解したりする能力が徐々に発達。 ・善悪の理解ができるようになり、特に悪については明確になってくる。 ・動植物などとも心で語りかけることができる。 	<p>基本的な生活習慣を中心に規則的な行動ができるようにする。</p> <p>友達と仲よくすることの大切さに、気付かせるようにする。</p> <p>行ってよいことと悪いことの区別が自覚でき、社会生活上のルールが身に付くように繰り返し指導する。</p> <p>周りの人々や動植物等とのかかわりに留意し、魅力的な読み物などにも触れられるようにする。</p>
中学年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の行為の善悪について、ある程度反省しながら把握できる。 ・自主性が増し、集団へのかかわりが深まる。 	<p>善悪の判断に基づく行動形成ができるかどうかの重要な時期なので、自分を内省できる力を養う。</p> <p>協力を養う。</p>
高学年	<ul style="list-style-type: none"> ・自律的な態度が発達。 ・人を思いやる共感能力が発達。 ・理想主義的な傾向が強くなり、自分の価値判断に固執しがち。 	<p>自律性を育む。</p> <p>国家・社会の一員としての自覚を深める。</p> <p>自己に対する肯定的な自覚を促す。</p>

2 指導方法の工夫

学校における道徳教育のかなめ役割を担うのは道徳の時間である。本時のねらいを効果的に達成させるには、児童の実態を踏まえることは勿論であるが、その上で、児童の心情に訴え、児童が意欲的に考え、主体的に話し合うことができるように指導方法を工夫することが必要とされる。そこで、道徳の時間に用いられる資料等に対する興味・動機付けと、道徳的価値が子ども自身の問題ととらえられるような、自己を見つめる手だてや発問の仕方の工夫が必要になると考える。

(1) 資料活用の工夫

絵本の教材化

道徳の時間における資料には、児童が道徳的価値の自覚を深めていく手がかりとして極めて大きな意味があり、児童が人間としての在り方や生き方などについて多様に感じ、考えを深め、学び合う共通の素材として重要な役割をもっている。小学校学習指導要領解説道徳編に、児童の心に響く資料選定の具備すべき要件として、「児童の感性に訴え、感動性の豊かな資料」「人間の弱さやもろさに向き合い、生きる喜びや勇気を与えられる資料」「生や死の問題、人間としてよりよく生きることを深く考えさせられる資料」「体験活動や日常生活等を振り返り道徳的価値の意義や大切さを考えさせられる資料」「多様で発展的な学習活動を可能にする資料」と述べられている。

読み物資料の種類には、昔話、寓話、逸話、物語、伝記、詩、日記、作文、新聞記事などがあり、以下のような多くの長所を備えている。

子どもの能力に応じて読める。

想像力を働かせることができる。

集団思考をさせたり、話し合いを効果的にさせたりする工夫ができる。

入手しやすく、手を加えることができる。

童話は、子どものために作られたものであるから、子どもの発達段階に即したものを選びやすく、適切な道徳の指導資料とすることができる。童話には、動物や植物などを擬人化して物語としているものもある。動物や植物を擬人化することにより、低学年の子ども

にとって、おもしろそう、知りたいという興味・関心がわき、空想の世界に同化しながら表現したくなり、人間で描くよりはっきりと子どもの心に道徳的価値が明確に受け止められやすい。また、それぞれの動物等のもつ強さのイメージ、性格のイメージを子どもが的確に受け止めることができる。そのため、人間が登場する物語よりも強く子どもの心に訴えかけることができる。

場面絵

挿絵を拡大コピーして場面絵として使用することにより、登場人物の大きさや表情等が子どもの持っているイメージから外れることなく自然に受け入れられる。また、そうすることで教師が指導しようとするねらいの方向へ導きやすくなる。

資料の映像化

日常生活で映像に慣れ親しんでいる現在の子ども達にとって、映像資料は親しみやすく映像や音声によって場面の様子や話の内容が理解しやすい。

今回の絵本「ともだちや」では、子ども達がスムーズに資料の世界に入ることができるように、映像ソフトを使って挿絵を全て写しだし、大型紙芝居のように一枚一枚を順々にめくれるように作成する。また、キツネの情感が見ている子ども達に効果的に伝わるように音楽 CD を使用し、文は、聞いている子どもの表情を確かめながら間の取り方を考えるなどして、その場で読み聞かせて聴覚的に印象づけるように工夫する。

(2) 自己を見つめる工夫

ワークシートの作成と活用

ワークシートの内容は、読み物資料の中心場面や深く考えさせたいところを取り上げ、自分の考えについて記述するという構成にする。

子ども達は、書くことを通して本時の価値に近づき、自己を見つめ、自分の気持ちや心の動き、考えをはっきりさせたり、新しい自己を発見したりすることができる。記述欄を手紙形式や、吹き出しを活用し中心になる人や物などの気持ちになって書くという形式にすることで、子ども達が自分の考えや気持ちを素直に表現しやすくなる。また、読み物資料にあるイラストを生かすと、さらにその話の雰囲気の中で考えを深めることができる。

授業の核心に迫る中心発問の直後や授業のまとめとしてワークシートを書かせるなど、

効果的なタイミングをはかれる工夫を行う。ワークシートに書いたことは、発表を通して自分に自信をもったり、交流することで級友の言葉に勇気づけられることにつながる。また、授業後の子どもの心の育ちを知る手がかりとしても活用できる。

今回は、道徳的価値の自覚を深めるために、価値について思ったことやその時の自分の気持ちを思いだしキツネに話すように吹き出しに書くという形式で自己を見つめさせるよ

2年()組 名前()

★友だちがいて本当に良かったと思ったことはありませんか。その時、どんな気持ちになりましたか。

オオカミさんと高尾君に会えたよ。きみの話を聞かせてね。

キツネさんあいの箱

★今日のどうとく(時間の学習)は・・・?

キツネやおおかみの気持ちを	考えることができましたか。	
かんじたことや考えたことを	ほっぴょうしたいと思いたか。	
ほんどうの友だちについて、自分の考えを友だちに話すことができますか。		

図1 ワークシート

うにする。吹き出しの欄に書かれた感想等の中に価値への気づきを感じられたら、そのことについて認め、今後の道徳的実践力へとつなげる。また、吹き出しの他に、その時間の自己評価欄を設け、本時の価値への気づきを確認できるようにする。

役割演技

子どもに当事者意識をもたせるために、個性や発達段階に応じて役割演技を取り入れる。即興性を重視される役割演技や動作化では、子どものあるがままの姿が生き生きと表現される。演者は、相互に相手の刺激に対して瞬時に応答する必要に迫られるので、日常生活で繰り返している自己の体験に頼るか、新しい応答の仕方を創造しなければならない。そして、その間に自らを見つめ、自らに問い、人間としての在り方や生き方を考えることができる。演技を見ている子ども達には、「見ている人も、～のつもりで見ましようね。」と声かけをするなど参加の仕方を配慮することが大切である。

演技の仕方としては、隣同士で行う、教師と子どもで行いみんなが見る、子ども同士で自由に演技し、教師が支援する方法がある。

役割に直接かかわる人物や動物特有のポーズをとらせたり、言葉や鳴き声などを発声させたりして、簡単なウォーミングアップをする。
役割演技を展開するために必要な条件を設定する。
役割やその場の状況にして即興的に演技を始める。
演技を中断して話し合ったり、条件を付け加えたりする。
で指摘された問題点や付け加えられた条件に基づいて、再び演技を行う。
再び中断して、役割演技の展開を援助する。
再び演技を始める。
演技を中断して「役割交代」をする。
役割交代後、再び演技を行い、ねらいとする価値について深く考える。
演技を終了して、話し合いを行う。

資料1 役割演技の基本的な指導過程（江橋照雄著「役割演技ハンドブック」より）

演者が感想を述べる。
観衆から演者が質問を受ける。
演者と観衆が意見を交換し合って、ねらいとする価値に迫る。

資料2 演技終了後の話し合いの手順（江橋照雄著「役割演技ハンドブック」より）

道徳の時間に役割演技を取り入れる場合、日頃から教科学習や学級活動等を通して表現や動物の練習などウォーミングアップして慣れさせておくと効果的である。

(3) 発問の工夫

道徳の時間で目指すものは、道徳的価値について自覚を深めることである。それは、教師の発問によって子ども一人ひとりが、自らに対する問いかけでどれだけ自覚できたか否か、またその深さが問われることになる。

学習の展開を構成していくための骨組みとなる発問が基本発問、基本発問の中で最も重要な発問を中心発問とよんでいる。「一歩前進道徳の授業」において目野末男は、望ましい発問とは、「漠然とした発問でなく、意図的、計画的であること。何を答えればよいかがわかるような明確な発問であること。多様な考えや感じ方を引き出し、話し合えるような発問である。」と述べている。

資料を用いてねらいとする道徳的価値に迫った後の展開後段では、その価値とこれまでの自分自身を振り返って考えさせる。その際、事実や行動のような表に表れる面ではなく、

ある事象に対していろいろな視点から心の深いところで受け止め考えさせるように、「その時どんなことを考えていたんだろう」「どんな気持ちでそうしたのだろう」などと発問することが大事である。それが道徳の授業における発問の特質で、資料3のような道徳的価値の自覚と実践力育成を観点にした発問を考慮する必要がある。

道徳的価値の自覚,実践力育成を観点にした発問	留意点
子どもが自分自身の問題として気づき,受け止め,子どもの実感や本音に基づく自分の考えを持ち,本音が出せるような発問	・子どもの実態(行為や意識,興味・関心など)を把握し,子どもが本音を出せるような学級の雰囲気などに配慮すること。
資料を使い,その中で一人一人の子どもが登場人物に託し,共感したり,反発したりなどしながら,ありのままの自分自身の感じ方や考え方を自由に表現できるような発問	・資料に登場する人物の行為や感じ方,考え方の価値観にふれ自分との対比が行われるようにすること。
正誤を問うものではなく,一人一人の子どもの多様な感じ方,考え方,価値観の見えるような発問	・多様な感じ方,考え方,価値観の出る中で,それと自分を対比し考えたり,感じたりしながら,自己を深めていくことができるようにすること。
道徳的価値についての発問	・ねらいとする道徳的価値にかかわる発問である。道徳的価値そのものについて教師自らの考え方をもちることが大切であり,また,子どもが自分とのかかわりでの道徳的価値をとらえられるように工夫することが大切である。
知識として知っていても,それが自分にとって本当に大切であるとか,自分にもあったと自覚させるような発問	・話し合いや今までの自分の経験や生き方を振り返る中で,はっと気がついたり,自分の本音や本当の姿に気づかせ意識させることが大切である。
学習したことを自分の課題として考え続けていくような発問や助言	・学習したことが,自分の課題として心にかかり自分の価値観に変えたり,実践意欲をもたせるような工夫が大切である。

資料3 道徳の授業の発問の特質

(廣瀬久著「発問の工夫」より)

授業実践

1 主題名

「友だちって大切なんだよ」 視点2 - (3)友情

2 資料名

『ともだちや』

3 主題設定の理由

(1) 価値観

子ども達が学校生活の中で一番楽しみにしている時間は休み時間であり,気の合う仲間と好きな遊びができるこの時間は,最も子ども達の瞳が輝く瞬間でもある。子どもにとって友達存在は非常に大きいもので,自分が相手に受け入れてもらえた時は心の安定につながる。友達関係がまだ浅く流動的なこの時期に,できるだけ多くの友だちと良い関わり合いがもてたら,どんなに楽しい生活を送ることができるか。「友達っていいな」「友達といると楽しいな。」という思いを実感させることを目的として,本主題を設定した。

(2) 児童観

事前に行ったアンケートの「みんなでドッジボールをして遊んでいる時にポツンと一人にいる子がいたら,あなたはどうしますか。」という問いに対して,29人中24人が「一緒に遊ぼうと誘う。」,3人は「友達と相談する。」,2人は「気にせず遊ぶ。」と答えている。このことから,一人ぼっちの子がいれば誘ったほうがいいと考える子どもが多いことがわかる。しかし,休み時間の子ども達の様子を観察してみると,友達の遊びを遠巻きに

傍観している子がいても誘わなかったり、決まった子とだけしか遊ばない子がいたりする。できるだけたくさんの子と関わられるように月1回席替えをしているが、こちらの思惑通り、席替えをする度に友達が一人二人と増えていく子がいる一方、相変わらず決まった子とだけしか遊ばない子や、グループから席を離し一人で給食をとろうとする子がいたりする。

そこで、本授業を通して、友達だと言われると嬉しいことや友達といると楽しいことに気づかせることで、友達づくりの核になる心を育てたい。

(3) 資料観

これまで子ども達は、入学時や進級した時、また新しい場所において、友だちがなかなかできずに寂しい思いをしたことと、友だちができて楽しく過ごしたことの両方を経験していると思われる。絵本「ともだちや」は、森一番のさびしんぼうのキツネが、友達ほしさから1時間100円で「ともだちや」を始めるといふ話である。オオカミという友だちができて、スキップしながら帰って行く時のキツネの姿は、子ども達に友だちの大切さを教えてくれる。挿絵の使い方や発問を工夫したり、友達がいない寂しいキツネが登場した場面と、オオカミの友達ができたキツネがスキップしながら帰る場面に合った音楽を入れることでさらにイメージを豊かにふくらませ、主人公のキツネと自分自身を重ねて見たり、キツネが一人ぼっちで寂しかった気持ちや、友だちができて嬉しい気持ちに共感しながら、友達の大切さを学習することができると思う。

表2 資料の分析 絵本「ともだちや」

場面	心の動き		発問の意図	主発問	評価
	キツネ	オオカミ			
1 キツネがともだちやを始めた。	さあ、友だちをつくるぞ。				
2 オオカミに呼び止められ、二人でドライブをした。	うまくできるかな。不安だな。	「おい、キツネ」友だちが来たぞ。			
3 キツネがオオカミにお代を催促した。	遊んでお代をとるのは、申し訳ないけれど..。	友だちからお金をとるのか。	オオカミの言う本当の友達について考えさせる。	「おまえは友だちから金をとるのか。それが本当の友だちか。」と言われたキツネは、どんな気持ちになりましたか。	・オオカミの言う本当の友達について考えることができたか。
4 キツネとオオカミが本当の友だちになった。	(予想外のことで)びっくりしたな。	本当の友だちだよ。	スキップしたキツネの嬉しい気持ちを共感させる。	オオカミの一番大切なミニカーをもらったキツネは、どんな気持ちだったでしょうか。	・キツネの嬉しい気持ちに共感できたか。
5 キツネがスキップしながら帰った。	明日も遊んでくれる友だちができて嬉しい。		友だちの存在の大切さについて、一人ひとりの内面的自覚を図る。	スキップしながら帰っていくキツネは、心の中でどんなことを考えていたのでしょうか。	・友達っていいな、友達といると楽しいなという思いを深めることができたか。

4 指導過程

(1) ねらい

「ともだちや」ののぼりを捨てて帰って行ったキツネの気持ちに共感することで、友だちの大切さに気づくことができる。

(2) 本時における具体的な手だて

友達の存在の大切さについて，一人ひとりの自覚が深められるようワークシートを用いる。

キツネの心情に共感させる為に，大型紙芝居や動作化・役割演技の方法を用いる。

価値を引き出すための発問の工夫をする。

(3) 展開

	学 習 活 動	主な発問と予想される児童の反応	教師の支援
導 入 5 分	1. 道徳シートをもとに話し合う。 ・ひとりぼっちの友だちを見かけた時やひとりぼっちになった時のことを考える。	ひとりぼっちの友だちを見かけた時やひとりぼっちになった時のことを考えましょう。	自分自身を振りかえり，ねらいとする価値への方向づけをする。 後の伏線としておく。
展 開 前 段 20 分	2. 「ともだちや」を聞く。 3. 絵 と 絵 のキツネの違いについて考える。 4. ほんとうの友だちについて考える。	<p>絵（ともだちやを始めた時の絵）と絵（手にミニカーを持っている絵）とではどちらが先ですか。</p> <p>・絵</p> <p>キツネはどうして「ともだちや」を始めたのでしょうか。</p> <p>・友だちがほしいから。 ・さびしいから。 ・お金儲けをしたいから。</p> <p>絵のキツネと絵のキツネを見て気づいたことはありませんか。</p> <p>・のぼりが無い。 ・ヘルメットを忘れてる。 ・お代がただになっている。 ・笑ってる。</p> <p>キツネはなぜこのように変わったのでしょうか。</p> <p>・友だちができたから。 ・オオカミから宝物のミニカーをもらったから。</p> <p>オオカミから、「おまえは友だちか金をとるのか。それが本当の友だちかといわれたキツネは，どんな気持ちになりましたか。</p> <p>・オオカミのことを友だちだなんて思っていなかったからびっくりした。 ・本当の友だちと言われて嬉しかった。</p> <p>オオカミの一番大切なミニカーをもらったキツネは，どんな気持ちだったのでしょうか。</p> <p>・オオカミがやさしくてうきうきしてきた。 ・もう，寂しくないぞと思った。</p> <p>スキップしながら帰っていくキツネは，心の中でどんなことを考えてい</p>	<p>ともだちやのやは，屋であることを押さえてから話し始める。</p> <p>プロジェクターを使用し，教師が読み聞かせをする。</p> <p>ともだちが欲しいキツネの寂しい気持ちを感じとらせる。</p> <p>役割演技でキツネの気持ちを共感させる。</p>

<p>展 開 後 段</p> <p>15分</p>	<p>5.これまでの体験を振り返ってワークシートを書き、発表する。</p>	<p>たのでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくにも友だちができた。 ・オオカミさんありがとう。また、来るからね。 <p>友だちがいて本当に良かったと思ったことはありますか。その時どんな気持ちがしましたか。</p> 	<p>友だちの存在の大切さについて、一人一人の内面的自覚を図る。</p> <p>友だちに優しくされた子の発表を受けて、優しくした子にも発表された今の気持ちを聞くことにより、「優しくして良かった」という思いを膨らませたい。</p> <p>休み時間、ひとりぼっちの子を見かけて時の望ましい態度について考えさせる。</p>
<p>終 末</p> <p>5分</p>	<p>6.教師の説話を聞く。</p>	<p>先生にも、キツネと同じような経験があります。</p>	<p>担任が小学生時代の忘れられない思い出話をする。</p>

(4) 評価

- ・友だちができた時のキツネの気持ちに共感することができたか。
- ・友だちの大切さに気づくことができたか。

結果と考察

1 手立て(1)の検証

絵本を映像化したり場面絵を用いるなどの資料活用を工夫をすれば、キツネへの共感が高まるであろう。

【結果1】



図2 絵本の映像化

キツネの思いに共感することが大切であるので、絵本の絵をパソコンに取り込み、キツネへの共感を高めるためにBGMを挿入して紙芝居に作り替えた。授業ではプロジェクターを使用し、それをスクリーンに映し出して大型紙芝居にすることで、視覚・聴覚に訴え興味・関心を高め共感を図るよう工夫した。

図3の場面絵は、絵本の挿絵を拡大カラーコピーし提示した。2枚の場面絵を見比べ、「ともだちや」を始めた時のキツネと家路につく時のキツネの様子を、「『ともだちや』のぼりが無くなっている。」「帰る時のキツネは手にミニカーを持っている。」等、キツネの変化にすぐに気付くことができた。

【考察】

映像化し音楽を使ったことで、読み物資料の魅力が
いっそう増し、子ども達を引きつけることができた。
また、挿絵をコピーした場面絵の提示により、大型紙
芝居で見た登場人物と同化し、教師のねらいとする方
向へ導けた。このことは、子ども達のワークシートの
自己評価の欄の「キツネやオオカミの気持ちを考える
ことができましたか。」の問いに対して、75 %の子ど
も達が「よくできた」の をつけ、18 %の子ども達は
「できた」の をつけていたということからも伺うこ
とができる。

以上のことから、クラスの9割の子ども達がキツネ
やオオカミに共感したと捉えることができ、視覚だけ
でなく聴覚に印象付けた資料活用は、効果的であった
と考えることができる。

2 手立て(2)の検証



図3 場面絵でキツネの
様子を比較

表3 本時の自己評価

Q.キツネやオオカミの気持ちを 考えることができましたか？	
よくできた	75 %
できた	18 %
できなかった	7 %
無回答	

発問を工夫することで、道徳的価値を引き出す手だてとなるだろう。

【結果1】授業記録より

T：キツネはどうして「ともだちや」を始めたのでしょうか。
C3：寂しいから。
C4：キツネはみんなと友達になって仲良くしたいから。
C5：自分(キツネ)と同じように友達がいないで寂しい思いをしている人と友達になりたいから。

図9 キツネがともだちやを始めた場面での発問

T：キツネはなぜこのように変わったのでしょうか。
C6：友達ができて嬉しいから、ともだちやののぼりがいらなくなった。
C7：友達になったオオカミから、注意されたから。

図10 キツネの様子が変わった理由を考えさせる発問

【考察】

絵本『ともだちや』は、大きく3つの場面に分かれる。キツネがともだちやを始めた場
面、オオカミに本当の友達と言われた場面、そして、キツネがスキップして帰る場面であ
る。最初の場面では、子ども達に「キツネはどうしてともだちやを始めたのでしょうか？」
と問いかけることで、ともだちやを始めたキツネの寂しい気持ちに共感させ、次のオオカ
ミと遊んだ場面では、ともだちやという商売をしなくても友達作りができるんだという気
付き、最後のキツネがスキップしながら帰る場面では、「なぜ、このように変わったので
しょう。」とキツネの変化から、友達のできた喜びや友だちの存在について考えさせた。
「友達をつくりたいから。」「自分と同じように寂しい思いをしている人と友達になりた
いから。」と、キツネを自分と置き換えて考え、自分にとっての友達の存在の大事さや友
達に対してこれまで自分がどう接してきたかということにかかわる返事が返ってきた。

また、役割演技の図4とも関連することであるが、「びっくりした。」と答えた C1 に対して、「どうしてびっくりしたの？」と C1 に切り返しの発問をしたことで、C1 は、びっくりした時の自分を振り返り、その時の気持ちを思い出すことができたようだ。

このように、道徳的価値を引き出す発問を工夫したことで、ともだちやをやることに至ったキツネの寂しさや友達ができた時の喜びを子ども達は感じ取り考え、友情を育てることの大切さを改めて実感したのではないかと考える。

3 手立て(3)の検証

ワークシートや役割演技を取り入れることで自己を見つめる手だてとなるだろう。

【結果 1】



図4 役割演技

C1: : あおう、まだお代をいただいていないのですが。
 C2: おまえは友達から金をとるのか。それが本当の友達か。
 C1:
 T: どうしたの。
 C1: びっくりした。
 T: どうして、びっくりしたのですか。
 C1: 本当の友達って言われるとは思わなかったから
 びっくりしたけど、嬉しかった。

図5 役割演技での会話

【考察】

結果 1 は、中心発問のオオカミとキツネを役割演技している場面である。キツネ役になった C1 は、オオカミ役の C2 に「それが本当の友達か。」と言われ黙り込んでしまった。そこで、役割演技の中断法を用いて教師が介入し「どうしたの？」とキツネ役の C1 に気持ちを尋ねると「びっくりした。」「本当の友達と言われるとは思わなかったから...。びっくりしたけど、嬉しかった。」と答えた。また、相手役の C2 は、オオカミから「本当の友達」と言われることに対して、キツネ役になる前は「そんなこと言われても別に何も感じないと思う。」と言っていたが、オオカミ役からキツネ役になりキツネのお面をかぶり役になりきると、「本当の友達と言われて嬉しいな。」と照れながらも嬉しそうな表情で答えた。C2 は、役割交代したことで本当の友達と言われることの喜びを実感し、先にキツネ役になった C1 の気持ちを理解することができたようだ。

【結果 2】

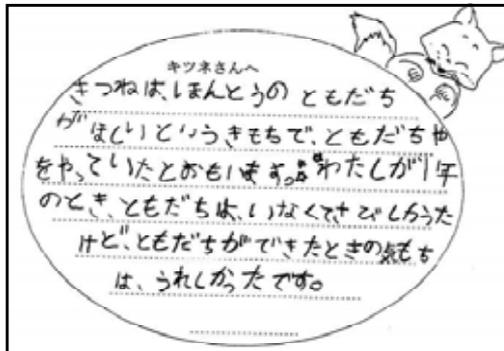


図6 Rさんのワークシート

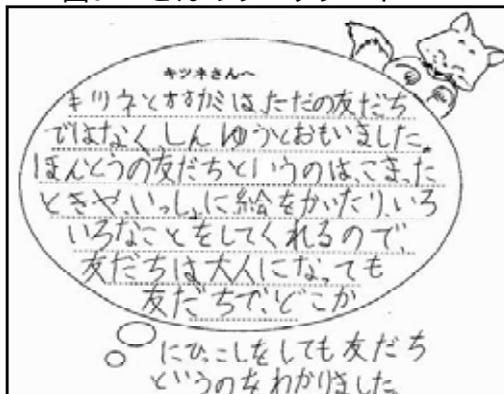


図7 Mさんのワークシート

結果2, 図6のワークシートを書いたRさんは, 始めは書くことにとまどっている様子だったが机間指導の際に「友達について思うことを, キツネに話すつもりで書いてごらん。」と声かけしたら, 友達がいなかった1年生の頃の自分を思い出し, 寂しかったことや友達ができた時は嬉しかったことをキツネに投射して感じたことを書いていた。図7のMさんが書いたワークシートには, 本当の友達とは困った時に一緒にいてくれたり, 大人になっても, 離れても友達であり続けるものだという自分の考えが書かれており, 道徳的価値の自覚の深まりが感じられた。

結果3は, 28名のワークシートの記述の分類である。図7のMさんのように, キツネを通して自己を振り返りここでの価値である友達の良さを感じ取ったり, 価値の自覚を深めたと思われる記述をした子が16名いた。

以上の結果から, ワークシートや役割演技を授業に取り入れることで自己を見つめ, 自分の考えや気持ちを素直に表現する手立てとなることがわかった。また, ワークシートを書くということは, 読み物資料の中の出来事を自分の経験と比較したり, 一緒に学習している友から教えられた事や道徳的価値にふれ, 考えたり学んだりしている自分自身に気づくことにつながると考えられる。

【結果3】

表3 ワークシートを記述内容から分類

分類の観点	28名
価値を自覚(友達は大事, 仲良くしたほうがいいと考えている。)	16
キツネに共感(キツネに自分を投射し, 友達について書いている。)	10
その他 (上の二つと関係ないことを書いている。)	2

(下山小学校 竹内善弘教諭 分類観点参照)

成果と課題

1 成果

絵本の映像化等の資料活用や, 発問, 役割演技・ワークシートなどの自己を見つめる手立てを工夫したことで, 道徳的価値の自覚を深めることができた。

2 課題

- (1) 展開後段での子ども達への支援のあり方。
- (2) 道徳的実践力にむすびつくような授業構成の工夫。

《主な参考文献と引用文献》

「小学校学習指導要領解説 道徳編」	文部省	大蔵省印刷局	1999
「道徳的価値の自覚を深める 発問の工夫」	廣瀬 久	明治図書	1999
「役割演技ハンドブック」	江橋照雄	明治図書	1996
「一步前進 道徳の授業」	目野末男	東洋館出版社	2000
「小学校学習指導要領の展開 道徳編」	押谷由夫	明治図書	1999
「道徳授業でやさしさづくり」	土田暢也	東洋館出版社	2001
「とっておきの道徳授業」	佐藤幸司	日本標準	2001
「自分を見つめ, 道徳的価値の自覚を深める道徳授業の在り方」	下山小学校	竹内善弘	